

2019/06/02

「所有者は誰？」

歴史の中で人間は、所有権を巡って争うことを繰り返してきました。むしろ、すべての争いは、結局のところ、所有権を巡って引き起こされたものであるといえます。

例えば、親は子どもを所有していると考えるから自分に従うことを求め、子どもは自分の所有権は自分にあると考えるから親の指示に反発するといった具合です。

このようにして、所有権を巡る争いによって、人は苦しんでいるのです。

■所有権は神にある

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」(I コリント 6:20)

聖書は、あなたの所有権を持っているのは、親でも自分でもなく、イエス・キリストだと教えています。キリストが所有権を買い取ったということは、私たちは自分の所有権を持っていないということなのです。

「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」
(I コリント 12:27)

器官とはからだに属するものです。ですから、キリストのからだの器官は、本体である神が所有するものです。

つまり、私たちは、自分の所有権は自分にあるのだと勘違いして争っていますが、私たちの所有権は神にあるのです。これが基本です。私たちは神のものであり、神にとらえられているのです。

それは、私たちの心の中を調べてみるとすぐにわかります。

人の心の中には、愛や自由や永遠を求める思いがあります。しかし同時に、時間や有限性にしばられているため、それらを求めるのをやめさせようとする思いも私たちの中には存在します。聖書は、これを「御霊の思い」と「肉の思い」と語っています。つまり、私たちの中には、「人を愛したい」という思いと、「憎い」「赦せない」という思いとが存在し、常にこの二つの思いが葛藤しているのです。

ここから結論づけられることは、私たちは神にとらえられているということです。

神だけが愛であり、自由であり、永遠です。人は神にとらえられているゆえに、ふるさとを懐かしむように、それらを求めて生きています。しかし、自分では何を求めているかはわかっていません。それが、神に捕らえられていて、神の所有物であるということなのです。このことを無視して、自分にはない所有権を主張して生きていることが、私たちの苦しみになっているのです。

■所有権がないのに主張するとは

1. 自分で自分を制約する

人は皆、自分の中で「～ねばならない」という思いをたくさん持っています。そして、自分や周りの人がそのルールに反すると、怒りを感じたり、落ち込んだりして、苦しさを感じます。それは、自分の所有権が自分にあると勘違いしているために起こるのです。

私たちの所有権は神にあるのですから、本来は神に従わなければなりません。自分で規則を作ったり、制約したりしてはならないのです。

「あなたがたは、私たちの中で制約を受けているのではなく、自分の心で自分を窮屈にしているのです。」(Ⅱコリント 6:12)

私たちが苦しめている思いは、「～ねばならない」という思いです。自分で作ったルール、律法です。ルールを定め、命じることができるのは、所有権がある人だけです。自分にはない所有権を主張するから、苦しくなってしまうのです。

2. 自分で重荷を背負うとする

重荷は所有者が背負うものです。

自分が所有する家に住んでいる人は、家に不具合があったら自分で修繕しなければなりません。しかし、賃貸の家に住んでいる人は、その家を所有する大家さんに連絡すれば、大家さんが責任を持って直してくれます。

私たちの人生にも同じことが言えます。何か問題が起こると、自分で何とかしようとしてしまうのは、自分に所有権があると勘違いしているからです。しかし、本来、あなたの重荷はあなたの所有者が背負うべきものなのです。

「私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にありますが、行きづまることはありません。迫害されていますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。」(Ⅱコリント 4:8-9)

「あなたは苦しむことも倒れることもない」と神が言われるのは、神があなたの所有者であり、あなたの重荷を背負ってくださるからです。

あなたは自分の人生の所有者は自分だと思って、自分自身で重荷を背負ってはいないでしょうか。イエス・キリストは、私たちが背負っている重荷をすべて背負ってくださいました。すべての重荷の中で、最も苦しい重荷は自分の罪です。すべての人が人には言えない罪に苦しんでいます。自分で取り繕おうとしてもうまくいかなかったこの罪を、イエス・キリストがなんとかしてくださるのです。キリストは、「重荷を私のところに持ってきなさい。私のところで罪を言い表しなさい。」と語り、十字架に架かりました。イエス様がしたことは、所有者がすることです。「あなたのことは全部私が責任を負う」、これがイエス・キリストの生涯です。

人は、自分の所有者は自分だと思って、神のところに罪を持って行こうとしないばかりか、神に文句を言おうとしています。しかし、私たちを造られたのは神です。神の御手の中で私たちは生かされています。自分で自分の重荷を背負おうとするのは間違いです。すべて神に差し出しましょう。

3. 裁く

あなたには、自分を裁く権利も、他人を裁く権利もありません。裁く権利は、所有者が自由に使えるものであって、私たちに権利はないのです。

もしあなたが、自分はダメだと言って嘆くなら、それは所有権を神から奪っている行為です。私たちは神の作品であり、神が自由にすることができます。神に感謝すべき立場であるにもかかわらず、人は裁いたり文句を言ったりしてしまいます。

また、人を裁くのも所有権の乱用です。あなたは誰のことも所有していないのですから、あなたに人を裁く権利はないのです。人を裁いてしまうのは、あなたが間違った所有権の理解をしているからです。

「さばいてはいけません。さばかれないためです。」(マタイ 7:1)

それは神が所有者であるからです。あなたは神に買い取られたキリストの体の一部であり、神が所有しておられるのです。

■どのように生きるべきか

1. 神にお任せする

「だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」(マタイ 6:34)

神は、「何も心配しないで私に任せよ」と言われます。ゆだねれば、あなたの不安はなくなります。

2. 神に従う

「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。」(マタイ 10:38)

「神に従う」とは、神が光となって道を照らすナビゲーターになってくださるということです。誤った道に進まぬよう、神が正しい道を照らしてくださるのです。

神は、奴隷をこき使って自分が立派だと言うことを見せつけたがる王のような方ではありません。

車のナビゲーションシステムが正しい目的地に導くように、聖書が私たちを導くナビゲーションなのです。

3. 神を信頼する

私たちがぶつかる問題に対して、必ず聖書には約束が用意されています。病に対しては祈りなさい、罪は告白しなさい、患難は必ず解決するから喜びなさい……。あなたはその約束をどこまで信じ、信頼することができるでしょうか。信頼こそが、所有者である神との間に必要なものです。

「天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。

さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。(マタイ 25:14-30)

「タラント」は、信仰を指します。信仰とは、神を信頼する心です。神は私たちに信仰をくださり、それをこの地上で豊かに増していくことを望んでおられます。

神に与えられた信仰を使って、どこまで神を信頼することができるかチャレンジしましょ

う。信仰を使う一番良いチャンスは、患難や苦しみの時です。このような時、神にゆだねて心配しないことです。

神は責任を持ってあなたの人生を管理し、導いておられます。すべてを働かせて益としてくださるのが神の仕事ですから、私たちは何も心配する必要はありません。家族、友人、仕事、あなたの人生に関わるすべてのことを神にゆだねましょう。

誰が自分を所有しているのか、それは神であるということを今一度確認し、所有者に対して正しい態度を持って生きていきましょう。